

編集後記

第1論文の執筆は、織田千賀子です。織田の業績として「VR 看図アプローチ」の発明がよく知られています。織田は、看図アプローチの新しい領域を開拓し続けてくれています。今号掲載論文では、「食道の解剖生理」授業に看図作文法を導入するという新しい試みをしています。織田の取り組みは常に、学生たちの臨床判断力を育成することを目指して行なわれています。今回も看護教育で最も大切なことを目指し続けている、その姿が読み取れる好論文になっています。

第2論文の第1筆者は高橋梢子です。高橋らの取り組みは、おそらく所属大学では初めての看図アプローチ実践になるものだと思います。高橋らは、看図アプローチの理論を正確にたどりながら授業設計をしています。そうすることで所属大学における看図アプローチのパイオニアとしての役割をしっかりと果たしてくれています。次の一步も楽しみになるすぐれた実践報告になっています。

第3論文の第1筆者は村山信子です。村山は、私（鹿内）が、天使大学を退職する間に研究室を訪れてくれました。ギリギリのところまで繋がったご縁を大切に、これまで実践研究を続けてきてくれました。村山はすでに本研究誌に論文が掲載されています。今回は「きゅうちゃん」の考案者石田ゆきと連携し看護教育の入り口にあたる部分の授業プログラムを考えてくれました。学生たちの可能性を引き出すために看図アプローチは何ができるのか。そういう問いに対する答えを提供している論文に仕上がっています。

今号は、すべての論文が看護教育に関するものでした。看護教育特集になっていますが、この論文では小中高の授業づくりの参考になる有意義な実践が報告されています。今号も、多くの先生方に読んでいただきたい論文が揃った充実した研究誌になりました。

〈表紙を読み解く〉

10月下旬に福岡で日本協同教育学会がありました。福岡では、たわわに実った柿の木を何度も目にしました。柿は種をまいてから実がなるまでに時間がかかる果物だと言われています。看図アプローチは、桃や栗よりも柿に似ているように思います。先生方のご尽力によって看図アプローチもさまざまな形で結実しつつあります。成果が「たわわ」になってきています。さらに成果が成果を生むという好循環も生まれてきています。この実りを次の実りに次々と繋げていきたいと思っています。引き続き看図アプローチをよろしくお願いいたします。

掲載各論文の組版から表紙デザインまですべて、私たちの研究会専属アートスタッフ石田ゆきによるものです。毎回のご尽力に心から感謝いたします。

文責 鹿内信善

—— 全国看図アプローチ研究会研究誌 23 号 ——

発行年月日 2024 年 11 月 8 日

編 集 「全国看図アプローチ研究会研究誌」編集委員

石田 ゆき

伊藤 公紀

織田 千賀子

鹿内 信善 *

山下 雅佳実

渡辺 聡

(* 印は編集代表)

発 行 全国看図アプローチ研究会



kanzu-approach.com

事務局長・編集長・DTP・表紙デザイン 石田ゆき